375.0
N11
資料室

30268
教科書文庫
3
810
32-1888
200030
1825
M21
1888

文學士平原貞七孫纂

富士讀本

明治廿一年二月九日
文部省檢定濟小學校教科用書

文學社

資料室
3759
No.11

目次

第一課　警察の話
第二課　爪及ビ毛
第三課　玻璃ニ字畫ヲ彫刻スル法
第四課　平野國臣の傳(一)
第五課　平野國臣の傳(二)
第六課　鄉訓　宮崎水石
第七課　中國路(一)
第八課　蒸氣機關

廣島大學圖書之印

廣島大學
教
31306
圖書

第九課 ぜいむそわつとノ傳(一)
第十課 ぜいむそわつとノ傳(二)
第十一課 蜂巣
第十二課 心臓
第十三課 蕪菁ニ就テノ話
第十四課 僧徒ノ暴横(一)
第十五課 僧徒ノ暴横(二)
第十六課 亞麻ノ話
第十七課 愚人已ゲ影ヲ怖ル 今昔物語
第十八課 中國路(一)

第十九課 蒸溜車
第二十課 そてぶんそんノ傳(一)
第二十一課 そてぶんそんノ傳(二)
第二十二課 鯨ノ話
第二十三課 中國路(三)
第二十四課 封建及ビ郡縣
第二十五課 腦髓
第二十六課 養腦ノ心得
第二十七課 節儉ト吝嗇トノ別
第二十八課 大麻ノ話

第二十九課　袴垂と保昌との話　宇治拾遺物語
第三十課　軍人へ五箇條ノ勅諭（一）

高等讀本卷七

第一課　警察の話

人々の安寧を妨げ、或は國の法度を犯さんとするは、甚だ惡しきことゝして、是等の惡事を防ぐために、政府ゝは警察の役所と、役人とを置かきとり、而して東京府内にも、警視廳と警察署とあり、また各地方にも、警察本署と分署とありて、其役人を警視警部巡査といふ、左圖に畫きたるは、一人の盜賊夜中竊ゝ或る家に押し入り、金錢を奪

はんとせーに、折節巡行の巡査ふ見顯えさきーゆゑ、金錢を奪ふかと能えざるのみならぜ、遂に捕縛せらきて警察署ふ引き行かるく所なり、若しも巡査の來合せざりせば、此家の金錢は、盜賊に奪ひ去らきーかるべし、

盜賊は、金錢を奪えんがために、人ふ傷づけ、或は人を殺ぜふとあり、之を強盜といふ、此圖ふ載せたる盜賊も、若し強盜かりせば、如何ふ危きぜふとあらぜやさきば警察事務の行き届きて惡事を爲ぜものゝ跡を絶つに至るは、實に人民の幸福と云ふべし、此他水に溺きーー人、火災に窘めらるゝ人、狂犬に咬み附かきんとぜる小兒等が巡行の巡査ふ其難を救えれー例少しーこせば、

或る市街の商店に、一人の虎列刺病ふ罹りしものありて、已ふ一命も危かりしが、この病は、病毒

感染し易きものにて、人々甚だ恐き嫌ふゆゑ竊に病人あることを押し匿して人ふ知らしめざるき然るに此地の巡査早くも之を探り知り、直に其家に行きて消毒法を行ひ、家内の人々に説諭して、病人を避病院に連き行き、懇に介抱せり、さきど此家の人々は頑愚なる者ゆゑ、却て之を怨み居たりしゑ、病人平癒の後家に歸りて、巡査の親切なりしゑと、避病院の介抱の懇篤なりしことごもを喜び語りしかば、此家の人々も、始めて警察の恩恵を悟り、最初頑固ふして、巡査を怨みしことを悔いたりとぞ、

若し巡査來りて、此病人を避病院に護送まるゑとなかりせば、近隣の人を始め、買物の爲に、朝夕此家に出入まる人々にも病毒忽ち傳染して、如何に流行せしやも知るべからず、さきばゑの病の流行を防ぐふも、警察の力著しと云ふべし、ゑの外風俗を正し、惡事を防ぐにも闕く可らざるものは警察なりと知るべし、

第二課　爪及ビ毛

爪ハ、皮膚ノ附屬物ニシテ、四肢ノ指端ニ在リ、其

外見ハ、全ク皮膚ト異ナレドモ、表皮ノ硬固ニナリテ變形セルモノナリ、其成長ハ、最モ速ナルモノニシテ、爪根ニモ毛母ト同ジク、爪母ト稱スルモノアリテ、其生育ヲ營ム、故ニ若シ爪母ニ傷ツクルトキハ、遂ニ再ビ爪ヲ發生セザラシムルコトアリ、而シテ爪ハ、啻ニ指端ヲ擁護スルノミナラズ、指甲ハ、能ク微細ナル物品ヲ摘ムニ便ナル者ナリ、

毛ハ、全身中足蹠手掌等ヲ除クノ外存在セザル處ナシ、是レ亦皮膚ノ附屬物ニシテ、長短一樣ナラズ、其表皮ニ出ヅル部ヲ、毛莖ト云ヒ、皮内ニ存スル部ヲ、毛根ト云フ、毛根ハ其底陷凹シテ、茲ニ毛母ヲ包有ス、毛母ハ、毛ノ發生ヲ營ムモノニシテ、毛嚢ヲ以テ之ヲ圍擁シ、毛嚢ハ、皮膚ノ一部反轉シテ嚢ヲ造リシモノナリ、

毛ハ、其發生部ニ從ヒテ、多少其用ヲ異ニセリ、例ヘバ、頭ニ於テハ、寒暖ヲ適度ニシテ、腦髓ヲ防護シ、且ツ頭上ニ受クル打撲等ノ力ヲ輕減セシムル者ナリ、又鼻毛、耳毛睫毛ノ如キハ塵埃等ノ侵入ヲ防ギ、又軀體ニ在リテハ其面積ヲ廣大ニシ、

以テ皮膚ノ蒸發氣ヲ放散スルノ用ヲナス、

第三課　玻璃ニ字畫ヲ彫刻スル法

玻璃器ニ字畫ヲ彫刻スル一或ハふろる水素瓦斯ヲ以テ腐蝕セシメ或ハ金剛石ヲ用フルノ法アリ、然レドモ金剛石ハ其價非常ニ貴クシテ常用ニ供シ難シ又ふろる水素瓦斯ヲ得ルハ最モ容易ナレバ我ガ邦尋常職工ノ容易ニ成シ得ル業ナルベシ、

茲ニ頗ル簡易ニシテ且ツ廉價ナル一法アリ我ガ邦ノ職工ニハ最モ適當ノ者ナルベシ、其器械

ハ、旋盤ト云フ者ニテ、之ニ大小種々ノ車ヲ附ケ、足ニテ踏ミ速ニ廻轉セシムル裝置ナリ、其諸車ハ、仕事ノ大小ニ因ルト雖モ、大抵一寸ヨリ六寸位ニシテ、總テ黃銅ヲ以テ製シタルナリ、

此器械ノ彫刻ニ用フベキ部ニハ、一小車アリ、此

車ハ、十分速ニ廻轉スルヲ要ス、故ニ其刃ニ油ト金剛砂トヲ塗ルベシ、蓋シ此油ハ、金剛砂ヲ車刃ニ粘着セシムル爲ニ塗ルナリ、サテ玻璃盞或ハ他ノ什器ニ、字畫ヲ彫刻セント欲セバ、之ヲ車刃ニ當テ、車ヲ廻轉シツヽ、字畫ノ模樣ニ隨ヒテ、其器ヲ進退左右スベシ、其理恰モ筆ヲ確ト固定シ、紙ノ方ヲ動シテ、字ヲ書スルト異ナルコトナシ、故ニ初メ之ヲナスニ當リテハ、甚ダ困難ニシテ容易ナラザレドモ、少シク馴ルレバ、直ニ姓名ナドヲ認メ得ルナリ、此車ハ卽チ筆ニシテ、什器ハ卽チ紙ナレバ、度々經驗シテ、能ク習ヒ覺ユルトキハ、精巧ニ彫刻シ得ルニ至ルナリ、

第四課　平野國臣の傳(一)

平野國臣ハ、福岡藩の士ホ〜て、通稱を次郎と云ひ、父を吉三と云へり、國臣ハ讀書を好み殊ホ國學ホ長ト我ガ國の故實に通ぜり、嘗て藩用にて江戸に行き、寛永寺增上寺を見て、其壯嚴の禁闕に超ゆるを憤り、皇室の衰微せるを嘆ぜり是より常に幕府を倒して、皇威を恢復せんことを謀ること、攘夷の令下るに及び、國臣大に喜び、姓名

を變じ竊ふ國を去りて京師ふ上り、賴三樹三郎、梅田雲濱等と交を結びて、將に事を起さんとせり、會幕府吏を發して、三樹三郎等を執へしが國臣ハ幸ふ客舍にあらざるを以て、其難を免れ、走りて福岡に歸きり、幕吏之を蹤跡るまと、極めて嚴なり、時ふ京都の清水寺に、月照と云へる僧あり、亦慷慨の人なりしが、難を避けて福岡に來り居きり、乃ち國臣と共に相謀りて、道士の裝を爲し、國臣ハ、自ら月照の弟子なりと稱し、與に薩州ふ至る薩州ふ西鄕隆盛なる者あり、固より愛

國の士なりしかバ、之に依りて伏匿せしに、幕吏の追躡益急なり、是に於て、國臣月照隆盛の三人相共ふ海に航して日向ふ奔り、船中ふ吟酌して、頻ふ國事を談ず切齒扼腕して悲憤に堪へず、時に一船の進み來るものありしが、月照と隆盛とハ、見て追兵なりと思ひ、共ふ相持して海に投ぜり、時ふ國臣ハ、獨り海風ふ吹かれて、笛を吹き居たりしが、之を見て大ふ驚き、急ふ水夫ふ命じて、二人を援ひしに、月照ハ、既に絶息したまとも、隆盛ハ幸ふ蘇生せりといふ、

既にして國臣竊ふ遁きて京師に入り、再び事を謀らんとせり、時に幕府人を京師ふ縱ち、尊王の志士を索むること益嚴かり、國臣事の成らざるを慮り、長門筑後の邊ふ往來して、同志を求む薩州の藩士堀忠左衛門も、慷慨の士かりしが共に時事を談論して、意氣頗る相投ぜり、因りて薩ふ入らんとせしに、關門嚴ふして入るべからず、乃ち藩士高橋某の僕となりて、漸く入ることを得たり、已ふして島津久光の尊攘の志あるを聞き、著す所の尊攘英斷錄及び培覆論を獻ず、久光見て之を嘉納し、互に時事を論談し、意氣相投ぜり、久光曰く、吾明春將に京に上りて、攘夷の勅を請んとす、卿先づ往きて待つべしと、國臣乃ち京に入りしが、同志の來り集る者三百餘人ふ及ひたり、是ふ於て、國臣書を朝廷ふ上りて、時事を論ぜしが、朝廷其論を採用せしふと少からずと云ふ、

第五課　平野國臣の傳(二)

時に福岡藩主黑田侯將に幕府ふ詣らんとして、播磨ふ至り、國臣直ふ藩主ふ說きて、義舉を勸

めーに、藩主大ふ驚き病と稱ーて國に歸きりとぞ、國臣ハ、薩州の士伊牟田尚平と同寓せーに、薩藩吏を遣ーて尚平を捕へ、併せて國臣に及ぶ、是き蓋ー尚平嚮ふ禁を犯ーて國を脱せるを以てなり、薩藩乃ち國臣を糺問ーて、更ふ之を福岡藩に送きり、藩主國臣の用ふ可きを知り、之を遇せること頗る厚ー、已ふーて皇威恢復の途に就き、曩に尊王の說を唱へて罪を獲たる者多くハ罪を赦きき、國臣も亦赦さきて京に入り、國體辨を著ーて、之を學習院ふ奉きり、學習院ハ、孝明天皇の創建ー給へる學校ふり、後召さきて學習院督長に命ぜらる、

時に中山侍從忠光尊王の師を大和に擧げ、將ふ幕府を討たんとせり、朝廷因りて國臣をーて之を諭さーめーゞ、途にーて其已に幕兵と戰端を開くと聞き、直ふ引き還きり、已ふーて幕府再び勢力を得たりーかば、京師の義徒漸く散ー、皇威亦少く衰ふる者の如ー、國臣亦去りて但馬に走り、姓名を變ーて、佐々木將監と云ふ、又長門ふ走りたる三條中納言に勸めて、忠光公を助けーめ

〻に聞かまゞ更ふ又澤主水正宣嘉ふ說きしに、宣嘉ハ之を傍觀まべからゞとて、共に兵を但馬の生野銀山ふ擧げ、急ふ代官川上德太郎の家に至りしゲ、德太郎偶公事を以て外に在り、留守武井某ふ向ひて、代官の家を借らんふとを迫る、武井惶惑して之を貸ま國臣等亦鎧仗及び米五十俵金千兩を借り、檄を四方ふ飛して兵を募り遥ふ大和の軍ふ應ぜしに、士卒來り集る者、頗る多しと云ふ、

已にして大和の敗聞至り、士氣大に沮みて亡ぐる者少からゞ、國臣乃ち事の就らざるを歎ド、宣嘉をして先づ遁ましめ、已も亦創を被るを以て、出でて奔きり、是ふ於て、出石、姫路、龍野、豊岡の諸藩、幕府の命を奉ドて追ひ來り、國臣遂ふ豊岡藩士の爲に捕へらまて、京師に檻送せらま獄中に在りて、自國論を著し、以て同窓の者に示ま、人皆讀みて感泣せざるはふし、

元治元年の秋、長藩京に入りて、火を市街ふ放ち、幕府の戍兵と戰ふ、幕吏之を時として越獄まる者あらんことを恐ま、悉く囚人を出して之を斬

る、國臣の刑ふ就くや、從容として北に向ひて、拍手再拜せり、蓋し永別を朝廷ふ告ぐるなり、國臣人となり、軀幹長大ふして、鬚髯鬖々たりしが、是に至りて、骨立ち肉脱し、鬚髮皆白く、恰も百歳の老翁を見るが如し、只眼光烱々として人を射るのみなり、死をる時元治元年七月二十二日ふして、年四十三なりと云ふ、

第六課　鄉訓

昔聖の誨へふも、人若し艱苦ふあふ時ハ、必ず憂へて樂しまねど、若しよく之を爲しあふせば善果を結ぶ基ふて、遂にハ康き身とならんと、いはきし言こを貴けき、大凡人の常として、艱苦を厭ふものなれど、其理を究むるば、是き皆天のわざ故ふ、ひたすら誠の心もて、正しき道を守りなバ、却りて享くる福の身ふあるなりある幸あらん、人の艱苦ハ多けきど、其大概を記さんふ、生きかがらの不具もの、重き病を抱く人、親ふハ離き子ふハ別き、生業事の利を失ひ、助けかたらふ友もなく、罪ふき身ふて咎をうけ、家ふ朝夕の貯ハなく、國ふ饑饉の災ある、是等ハ人の大艱ふて、心を痛

め身を苦しめ目瞶耳聾手足をも傷り殘ふのみならず氣力も弱み命さへ絶ゆるも計り難けきバ、厭ひ惡むも理なり、

さきど人よく耐へ忍びて千辛萬苦を凌ぎふば人の人たる道を得て神の心に協ひかん、縱ひ如何なる人とても、天より之を見る時ハ善を爲せども爲し足らず、惡をさきども去りたらぬで、多くの艱苦を受けさせて、自づと己が心より悟り得さする惠みなり、そを故善者の艱めるハ、兒童が親の譴をうけ、弟子ろ其師の呵を得て、愈知識

を開くやう、天の心の誠より深くもこまを愛つるなり、惡者の艱ハ、事かむ王、懶奴の鞭を受くるふ伏、賊子の刑に遇ふ如く、戒め懲さ玉となきど、斯くして善に勸めんと、是き亦天の惠みなり、天ハ世人の親ふして、世人ハ天の子なるゆゑ、天の世人を憐むハ、さながら親の子を思ふ心とかどか異ならん、惡者ハ懲して善からしめ善者ハまゝ其善を瑕なき玉ふ爲し得んと、千ぐに心を碎きつゝ與ふる艱苦ハ、身の砥礪磨き終まる上からハ、眞の光り燿きて、後の世までも照さらん、

さきば人の艱苦を受くる事多き中にも多けれど、利益を得る事亦多し、其益とハ如何ならん、富貴利達の末からぞ、長生不老の假からぞ、五の端を開きもて備ふ其美を言ひ明さん、一つハ、人の性として、たとひ善なる者よても、惰り易きは常ゆゑふ、浅き惡をバ改めぞ、微き善ハ忘れ居て、しらぞ知らぞれのづから、多くの罪を得るかれバ、其過ちを贖ふハ、艱苦ふ勝るものはかし、さきれば已ゞ心より、深く戒め痛く、悔い、改めざるの惡を去り、忘れし善を行えん、二つふは、又善者として、

心を物ふ惑ハさき色ふ羈さき利ふ迷ひ美田華屋を望みなバ、天より下き禍ハ、疾きこと風雨の如くなり、譬へて言ハバ幼稚の刃を持てるを、父母ゞ、早くも之を取り去りて、過ちさせぬ如き故、如何ゞ艱苦を得るとても、ひたすら天を敬ひて愈戒慎恐懼せバ、眞の福こそ得べきなき、三つふハ、凡そ人として、さまでの憂ふ遇ふことふく、さまでの貧苦を凌ゞぞバ、いかで他人の艱難を、救ふ心を彈し得ん、ふるき昔の諺に、百度聞きし事とても、一度爲せしに及ぶまじとあらゆる艱苦

を已か身に受けしこそ、人の苦をも身にしみ渡る計りなを然して人を救ひなを、残る隅なき事ならん、四つにて、たとひ如何なる善人も、必を滅し得ぬ欲ありて、猶不修め得ぬ徳あるを、自ら義とし大とせを、謙てふ道ふ背く故、又禍を受けさせて、已ふ克ちて禮ふさへ復さしむるの恵ふり、之を譬へて言はんにハ、鍛冶の火をもて金を煉り、悪しき滓をバ去りつくし、其純粹を取る故に善の又善精の又精なるものといひつべし、五つにて、又千早振神の在せる處こそ、吾ゲ父母の家

なきバ、人の此世にあるハ猶不親を離れて遊ぶ子の、遠き他郷ふある如し、自由自在ふ事足らを、歸るさ忘る事あらん、若しも志も〳〵難苦を得バ、自と家を思ひ出で親を慕へる眞情の朝ふ夕ふに彌増り、只何事も神かけて、誠を盡す者ふらは是ぞ善果を結び得て、康き身と成り、末永くえてふき福を享くるぞかしふく、宮崎水石

第七課　中國路(一)

中國路ハ、攝津大阪ヨリ長門赤間關ニ至ル街道ニシテ、里程百三十五里餘アリ、其道ハ、概ネ山陽

道ノ海岸ニ沿ヒ、時ニハ内海ヲ望ムコトアリ、而シテ内海ノ風景ハ、殊ニ奇絶ナリト云ヘリ、攝津須磨ノ浦ヨリ海濱ニ沿ヒテ播磨ニ入レバ、明石ト云ヘル名邑ニ至ル、此間ニ舞子濱アリ、白砂青松相連リテ遥ニ淡路島ヲ望ミ、更ニ西ニ進メバ、加古川ソロニ、高砂ト云フ名邑アリ、其西北ニ石寶殿ノ奇觀アリ、石寶殿ハ、一大石室ノ池中ニ横ハレル者ニシテ、屋ヲ横ニシ戸ヲ上ニシ、其形狀頗ル奇古ナリ、

姫路ハ、美作及ビ山陰諸國ヨリ、畿内ニ出ツル要路ニ當リ、市川其東ヲ流ル、其河口ニ飾磨津アリテ、水陸運輸ノ便ヲ占メ、人民輻輳ノ地ナリ、海濱ニ室津及ビ赤穗アリ、皆名邑ナリ、姫路ヨリ正北ニ進メバ但馬路トナリ、西北ニ進メバ、美作路トナル、播磨美作ノ境ニハ、坂路アレドモ嶮峻ナラズ、美作ノ津山ハ、津山川ノ北岸ニアリ、川ヲ隔テヽ久米山ヲ望ムベシ、眺望殊ニ佳ナリ、其西ニ院莊アリ、傳ヘ云フ、後醍醐天皇隱岐ニ遷幸ノ時、兒島高德ノ櫻樹ニ詩句ヲ題セシ所ニシテ、今猶ホ其舊趾ニ櫻神社ヲ祀レリトゾ、

中國路ヲ經テ、姫路ヨリ西ニ進ミ、舟坂ヲ越ユレバ備前ニ入リ、西片山、藤井等ノ驛ヲ過グレバ、岡山ニ至ルベシ、岡山ハ、西大川ノ西ニ沿ヒタル都會ニシテ、人口三萬餘アリ、此國第一ノ都邑ニシテ、岡山縣廳ノアル處ナリ、又蟲明ハ、西片上ノ南ナル海岸ニアリテ、西大寺ハ、藤井ノ南ニアリ、共ニ船舶輻輳シテ、市街殷賑ナリ、國ノ西南部ニ當レル兒島半島ハ、昔時ハ藤戸ノ海峽アリテ、陸地ト相離レタル一島嶼ナリシガ、源平ノ戰ニ、佐々木盛綱ガ單騎ニテ、藤戸ノ渡ヲ渡リ先登セシ處ナリト云ヒ傳フレドモ、今ハ海峽淤塞シテ陸地トナレリ、島中ニ兒島高德ノ城趾アリ、

備中ノ界ニ至リテ、吉備ノ中山ヲ過グレバ、此處ニ吉備津彦神社トテ、結構壯麗ナル古社アリ、其村ヲ宮内ト云ヒテ、一ノ市街ヲナセリ、庭瀨倉敷笠岡等ノ名邑ヲ過グレバ、備後ニ入ルナリ、

備後ノ福山ハ、國ノ南部中ノ大邑ニシテ、是ヨリ尾道三原ノ名邑ヲ過ギテ、安藝ニ入ルナリ、尾道ハ、大阪ト赤間關トノ間ニ在ル良港ニシテ、頗ル繁華ナル市街ナリ、此處ニ菅原道眞平清盛足利

尊氏等ノ古跡ヲ存セリ、三原ノ西一里許ノ處ニ、山中村ト云フ處アリ、全村到ル處ニ梅樹ヲ植エ、盛ニ梅干ヲ輸出スト云フ、花時ハ遊客頗ル雜沓セリ、鞆津ハ、國ノ南端ニアリテ、亦一ノ名邑ナリ、國ノ北部ニ、三次ト云フ都會アリ、是ヨリ出雲伯耆安藝備中等ニ至ルベキ通路アリ、備中ニ至ル支道ニ、末渡村ト云フ處アリ、其西南一里餘ニ、御神山ト云ヘル高峰聳立セリ、其山中ニ奇巖アリ、溪流ニ跨リテ、天然ノ橋ヲ成セリトゾ、

第八課　蒸氣機關

蒸氣機關ハ、蒸氣カヲ利用スル者ニシテ、其運動力極メテ強盛ナリ、故ニ之ヲ百般ノ工業ニ利用シテ、莫大ノ便利ヲ得ルハ、人ノ能ク知ル所ナリ、彼ノ紡績ニ於ケル、製織ニ於ケル、或ハ瀛車瀛船ニ於ケル等皆蒸氣ノカニ依リテ、大ニ其勞働ヲ助クルモノナレバ、蒸氣機關ハ、人間ノ工業上一日モ缺クベカラザル要具ナリ、

蓋シ蒸氣ハ、如何ニシテ其カヲ逞シクスルカト云フニ、溫熱ハ、能ク冷水ヲ蒸氣ニ變化セシムル者ナレバ、此蒸氣ヲ其質堅固ナル筒中ニ集メ、之

ヲ鐵管内ニ導キテ蒸氣機關ノ裝置ヲ備フルトキハ蒸氣其力ヲ逞シクシテ或ハ船舶ヲ海上ニ進行セシムベク或ハ列車ヲ鐵道上ニ回轉セシムベシ是ノ如ク蒸氣ノ力ハ強盛ナル者ナレドモ理學上ノ原理ニ基キテ其力ヲ薄弱ナラシムルノ一法アリ即チ蒸氣ヲシテ再ビ流動體ニ變ゼシムルコト是レナリ

例ヘバ今一鑵ヲ取リ滿スニ冷水ヲ以テシ烈火ニテ之ヲ熱スルトキハ冷水忽チ變ジテ溫湯トナリ遂ニ煮沸シテ蒸氣ニ變ズルコト必セリ而

シテ其室内殊ニ寒冷ナルトキハ鑵ノ外面爲ニ濕ヒ遂ニハ水滴ノ墜下スルヲ見ルベシ是レ他ナシ前ノ蒸氣ハ寒冷ナル空氣ニ觸レテ氣體ノ形狀ヲ保ツコト能ハズ再ビ流動體ニ變ジテ水滴トナルニ由ルナリ彼ノ玻璃窓ノ濕ヒテ水滴ヲ存スルモ亦此理ニ均シ今天地間ノ現象ニテ之ヲ考フルニ雨ノ降ルモ亦此理ニ外ナラズ即チ河海若クハ池水ヨリ昇騰シタル蒸發氣ハ雲トナリ空際ニ上リテ寒冷ナル氣ニ觸ルヽトキハ再ビ水滴ニ化シテ地上ニ降ルナリ

蒸氣ノ力ニハ、恐ルベキ者ト、利用スベキ者トノ別アリ、其恐ルベキ者トハ、何ゾヤ、曰ク、一ノ鐵管ヲ取リテ、之ニ滿スニ蒸氣ヲ以テスルトキハ、常ニ鐵管ノ破裂センコトヲ苦慮シテ、自ラ恐怖ノ心ヲ生ズベシ、然レドモ亦前理ニ基キテ、之ヲ救フコトヲ得ベシ、卽チ冷水ヲ管中ニ注入スルトキハ、蒸氣忽チ變ジテ水滴ニ化スレバナリ、又其利用スベキ者トハ、何ゾヤ、卽チ彼ノ蒸氣ヲ蒸氣機關ノ鑵中ニ集メ、之ヲ隨意ノ方向ニ導キテ、滊車滊船ヲ海陸上ニ進行セシムル等是レナリ、

第九課　ぜいむゑわつとノ傳(一)

西曆一千七百三十六年ニ、英國ノトよつとらんとト云ヘル處ニ、一英兒ノ誕生セルアリ、ぜいむゑわつと卽チ是レナリ、幼時身體薄弱ニシテ、常ニ頭痛ヲ憂ヘ、其性深沈溫厚ニシテ、遊戲ノ際ニモ、必ズ粗暴ノ擧動アルコトナク、常ニ遠慮アル者ノ如シ、其母モ亦頗ル穎敏ニシテ、能クわつとヲ勸育セリ、わつとノ後來蒸氣機關ヲ發明シタルモ、其母ノ庭訓亦大ニ與リテ力アリト云フ、嘗テ一日叔母ノ來訪スルニ際シ、わつとモ其母

ノ傍ニ座セリ、叔母ハわつとノ深沈ニシテ、猥リニ人ト言語ヲ交ヘザルヲ見テ、此兒ハ何ゾ斯ク愚ナルカト云ヘリ、其日モ已ニ暮ルレドモ、わつと未ダ一言ヲ發セズ、只其傍ニ在ル鑵ノ蓋ヲ開キテ、蒸氣ノ撒布スルヲ熟視シ、又鑵ノ蓋ヲ閉ヂ

テ、熱湯ノ沸騰スルヲ見之ヲ開閉スルコト幾十度ナルヲ知ラズ、叔母之ヲ見テわつとニ云ヘルヤウ、我未ダ汝ノ如ク蠢愚ナル兒童ヲ見ズ、我汝ニ問フコトアルモ之ニ答ヘズ、徒ニ鑵ノ蓋ヲ開閉スルハ、果シテ何ヲ爲サント欲スルカ、其愚誠ニ笑フベキニ非ズヤト、然レドモ、わつとハ少シモ聞カザル者ノ如クナリキト云フ、

わつと稍長ズルニ及ビ、父母之ニ勸ムルニ他邦ニ遊學スルコトヲ以テシ、乃チ謂ヒテ曰ク、今日文學工藝ノ盛ナルハ、ぐらもごり府ニ若クハナ

シ、宜シク彼處ニ行キテ留學スベシ、其學術ノ如キハ、只汝ガ欲スル所ニ任ズベシ、只事業ヲ成就セントスル者ハ、必ズ堪忍セザルベカラズ、堪忍ノ念ヲ養フモノハ、一部ノ聖書アルノミ、故ニ汝ニ與フルニ此聖書ヲ以テスベシ、常ニ熟讀シテ其理ヲ推考セヨト、是ニ於テ、わつと鄕里ヲ辭シテ、遠クぐらもごう府ニ留學セリ、

第十課　ぜいむそわつとノ傳(二)

其後わつと專ラ心ヲ技術ニ用ヒ、拮据黽勉シテ、寢食ヲ忘ル、ニ至ル、又常ニ聖書ヲ讀ミテ略ボ

其義理ニ通ジ、大ニ感悟スル所アリ、已ニ數年ヲ經テ、純然タル技術手トナリ、專ラ心ヲ蒸氣力ニ留メ、千思萬考シテ、蒸氣機關ノ裝置ヲ考索シ出セリ、サレドモ資金ノ乏シキガ爲ニ、其發明ニ從事スルコト能ハズ、鬱々トシテ樂マザルコト久シ、乃チ聖書ヲ繙キ、一心ニ熟讀スルニ從ヒテ、百折不撓ノ氣勃然トシテ起リシカハ、更ニ舊ヒテ資金ヲ調ヘ、遂ニ完全ナル蒸氣機關ヲ構造スルコトヲ得タリ、實ニ一千七百八十三年ナリ、是ニ至リ、わつとノ名聲遠近ニ轟キ、各國ノ技手來リ

テわつとヲ訪ヒ、其機關ノ完全ナルニ驚カザル者ナカリキ、

わつとハ、猶ホ是ヲ以テ足レリトセズ、將ニ蒸氣カヲ英國ノ諸工業場ニ利用セント欲シ、廣ク技手ヲ招集シテ、其作用ト用法トヲ講究セリ偶其工場ニ雇使セル米國ノ技手ト相謀リテ、遂ニ蒸氣船ヲ發明スルニ至レリ、而シテ其機械運轉等ニ至リテハ、固ヨリわつとノ計畫ニ出ヅル者多シ、故ニ之ヲわつとノ發明ナリト云フモ、亦不可ナキナリ、是レ實ニ一千八百三年ノ事ナリキ、是ニ於テわつとハ、世人ノ尊敬ヲ受ケテ、富貴ノ身トナリシト雖モ、少シモ傲ルコトナク、常ニ昔日ノ地位ヲ忘レザリシト云ヘリ、

第十一課　蜂巣

我等ガ園中ヲ逍遥スルトキ、屢蜂房ヲ目擊スルコトアリ、此房中ニハ夥多ノ小室アリ、而シテ房中ニハ、群蜂ノ魁タルモノ即チ蜂王ト稱スルモノアリ、群蜂皆其命ニ服從スルコト恰モ肱ノ指ヲ使フガ如シ、

蜜蜂ハ、其性尤モ忍耐力ニ富ミ朝ハ鳥雀ノ聲ヲ

聞カザル二、早ク既ニ房中ヲ出テテ、八方ニ蜚ビ去リ、百卉ノ中ヲ飛翔シテ、花液ヲ吸取シ、之ヲ口中ニ貯ヘテ房中ニ運ビ、巧ニ蜂蜜蜂蠟ヲ製シ、孜々黽勉怠ルコトナシ、斯ノ如ク、終日飛ビ去リ蜚ビ來リテ、繁忙極リナシト雖モ、巣中常ニ清潔ニシテ、一塵ノ存スルモノナシ、且ツ其中ニ一定ノ法則アリテ、群蜂之ヲ犯スモノアルコトナシ、若シ他動物ノ其業ヲ妨グルアレバ、群蜂共ニ之ヲ螫シテ、再ビ近ヅクコト能ハザラシム、

暑既ニ往キ寒隨ヒテ來ルノ時ニ際スレハ、各全

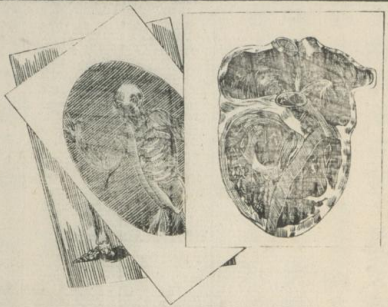
ク蜚行ヲ止メ、一所ニ其房ニ固着シテ一塊ヲナシ、恰モ凝結シタル者ノ如シ、之ヲ蜂塊ト謂フ、斯ノ如クシテ冬ヲ送リ、漸ク春暖ヲ待チテ眠リヲ醒シ、再ビ其業ヲ執ルヲ常トス、所謂蜂蜜ナルモノハ秋中ヨリ春時ニ至ルノ間ニ於テ、多量ヲ取ルコトヲ得ベシ、

蜂ハ、是レ一寸ニ足ラザル小蟲ナリ、然レドモ能ク戮力勵心シテ、勉強一日モ懈ルコトアラズ、故ヲ以テ、三冬嚴寒ノ時ト雖モ毫モ凍飢ノ患ナクシテ、安逸ニ眠ルコトヲ得ルハ、只其勤勉ノ效果

ニ由ルナリ、然ルニ萬物ノ靈タル人類ニシテ、天稟ノ四肢ヲ動カサズ、飽食暖衣シテ、毫モ勞役者ノ勤勞ヲ顧ミズ、放逸ニ日ヲ送リテ、空シク貴重ノ光陰ヲ偷ムモノハ、此寸蟲ニ愧チザラント欲スルモ、豈得可ケンヤ、

第十二課　心臓

心臓ハ、胸腔内ニアル貴重ナル臓器ニシテ、血管系統ノ中部ナリ、其形ハ、不等三角形ニシテ、其大サハ拳子大ナリ、筋肉質ヨリ成リ、膜嚢ヲ以テ之ヲ被覆セリ、其位置ハ、左ノ第三肋骨ト第五肋骨



トノ間ニ當リテ、斜ニ横ハリ、胸骨ノ右縁ニ接セリ、其基底ハ後方ニ向ヒ、尖端ハ前方ニ向ヒテ、横膈膜上ニ安置セリ、

心臓ノ内部ハ、縦横ノ中隔ニ由リテ、上下左右ノ四部ニ分ル、其上部ハ小ニシテ、左ニアルモノヲ左上房ト云ヒ、右ニアル

モノヲ右上房ト云フ、其下部ハ大ニシテ、一ヲ左室ト云ヒ、一ヲ右室ト云フ、横中隔ニハ、二孔ヲ具ヘ、房ヨリ室ニ向ヒテ相通ズ、之ヲ名ヅケテ房室孔ト云フ、此孔ニハ、瓣膜ト云ヘル者アリテ、常ニ開閉ス而シテ其左ノ房室孔ニアル瓣膜ハ、二葉ヨリ成レリ、之ヲ僧帽瓣ト云フ、右ノ房室孔ニアルモノハ、三葉ヨリ成レリ、之ヲ三尖瓣ト云フ、

右上房ヨリ二個ノ大靜脈幹ヲ發シ、全身ノ諸部ヨリ還流スル靜脈血ヲ受ク、此靜脈血ハ房室孔ニ由リテ、右室ニ通ズ、右室ハ、右上房ニ比スレバ、

甚ダ濶大ニシテ、其筋壁モ亦強厚ナリ、所謂肺動脈ハ、爰ヨリ發スル者ニシテ、其開口部ニ三葉ノ瓣膜アリ、之ヲ半月瓣ト云フ、此瓣膜ハ、血液ノ反流ヲ防グモノナリ、

左上房ハ、其造構右上房ト同一ニシテ、肺靜脈此ニ開口シ、房室孔ニ由リテ左室ニ通ズ、左室ハ、心臟中其筋壁最モ強厚ニシテ、收縮力極メテ強シ、蓋シ左室ハ、大動脈幹ニ血液ヲ射出シ、之ヲ全身ニ輸達スルノカヲ具フルモノナレバナリ、此大動脈ノ開口部ニ、三葉ノ瓣膜アリ、是レ亦半月瓣

ト名ヅク、
心臟ノ運動ハ、一伸一縮シテ、互ニ相反覆シ、終始間斷アルコトナシ、之ヲ心ノ收縮及ビ擴張トハ云フナリ、

第十三課　蕪菁ニ就キテノ話

一農夫アリ、性頗ル溫厚篤實ナリシカド、其家極メテ貧ナリ、アル日畑ノ中ニアリテ、一ノ蕪菁ヲ得タリ、其大サ殆ド斗ノ如シ、未ダ曾テ見ザル所ナリ、農夫竊ニ以爲ヘラク、斯ル尤物ヲ人ニ渡シテ利ヲ得セシメンコト、我ガ欲セザル所ナリ、之

ヲ我ガ仁愛ナル國主ニ獻ズルニ若カズト、直ニ之ヲ携ヘテ國主ノ邸ニ獻納セリ、
此國主ハ寛仁ニシテ能ク部下ノ民ヲ撫育シ、又能ク農事ヲ奬勵セシカバ、民皆之ヲ愛敬スルコト恰モ嬰兒ノ慈母ニ於ケルガ如シ、是ヲ以テ今農夫ガ獻ジタル大蕪菁ヲ見テ、其厚意ニ感ジ、報ユルニ金三圓ヲ以テセシカバ、農夫ハ益感激シテ、其恩賜ヲ拜謝シテ家ニ歸リタリトヅ、
同村ニ一豪農アリ、家甚ダ富ミタレドモ、其性吝嗇貪慾ナリシカバ、村民皆之ヲ謗リ、一人ノ之ト

交際スル者ナシ、偶彼ノ農夫カ蕪菁ヲ獻ジタル事ヲ聞キ、竊ニ以爲ヘラク、僅ニ一株ノ蕪菁ヲ獻シテ、三圓金ノ恩賜ヲ受ケシカバ、我今更ニ國主ニ贈ルニ、我ガ最愛ノ犢ヲ以テセバ、直ニ數百金ヲ賜ハランコト必ズ期スベキナリト、自ラ問ヒ自ラ答ヘテ、直ニ犢ヲ牽キテ國主ノ邸ニ至リテ之ヲ獻ジタリ、

國主ハ、素ヨリ彼ガ貪慾ナルコトヲ熟知センカバ、既ニ其意ヲ悟リテ竊ニ憤ルト雖モ、殊更ニ面ヲ和ゲテ曰ク、汝ガ厚意謝スルニ辭ナシ、サレド

モ我之ヲ受クルノ理ナシ、汝速ニ之ヲ牽キ歸ル可シト、豪農ハ、尚ホ之ヲ強ヒテ曰ク、此小犢ヲ獻ズルハ、敢テ賄賂ト云フニ非ズ、只閣下平常ノ仁慈ニ酬ユルノミ、請フ幸ニ之ヲ受ケラレンコトヲ、ト再三再四請ヒテ已マザリケレバ、國主モ遂ニ止ムコトヲ得ズシテ曰ク、汝ノ厚意又辭スルコトヲ得ズ、依リテ其請ニ從ヒテ其贈遺ヲ受ク可シ、然レドモ我亦汝ニ酬ヒザル可カラズ、我ニ一奇品アリ、數百金ヲ積ムトモ容易ニ購ヒ得ベキモノニアラズ、今之ヲ汝ニ與フ可シト、豪農之

ヲ聞キテ、手ノ舞ヒ足ノ蹈ム處ヲ知ラズ、頻ニ叩頭シテ之ヲ謝ス、其賜ヲ拜スルニ及ビテ、之ヲ熟視スレバ、卽チ曩ニ貧農ノ獻ジタル大蕪菁ナリキト云ヘリ、

第十四課　僧徒ノ暴横(一)

聖武天皇以後佛法盛ニ行ハレ、上ハ公卿ヨリ、下ハ庶民ニ至ルマデ、寺塔ヲ建テザル者ハ、人間ニ列スルコト能ハザルノ勢ニテ、爭ヒテ田園ヲ捨テヽ寺領トナシ、良民ヲ度シテ僧徒トナスコト少カラズ、中古ニ至リ、畿内近國ノ大寺ニハ、七大寺、十大寺、十五大寺等ノ名アリ、其最モ大ナル者ハ、山城ノ延曆寺、近江ノ園城寺、大和ノ興福寺ナリ、

興福寺ハ、藤原不比等ノ創建セシ所ニシテ、藤原氏世々之ヲ尊崇セリ、僧徒ハ、出家ト稱スルニ由リ、固ヨリ世俗ノ外ニ立ツ者ナレドモ、當時ハ是レ亦世俗ノ一部ニシテ、常ニ世俗ト其風潮ヲ同ジウセリ、藤原氏ノ政權ヲ執ルヤ、華美ヲ競ヒ、榮燿ニ誇リテ、驕奢度ナカリシカバ、當時ノ僧徒モ、亦之ニ浸染シ、唯榮華ヲ好ミ、權勢ヲ貪ルニ至レ

リ、初メ僧最澄唐ニ往キ法ヲ學ビテ、其名一時ニ高カリシガ、延暦年中ニ一寺ヲ創建セリ、延暦寺卽チ是レナリ、其後僧圓仁、圓珍皆唐ニ往キ、後共ニ延暦寺ノ座主トナリ、其徒甚ダ多シ、圓融天皇ノ時ニ、圓仁、圓珍ノ徒、法性寺ノ座主タランコトヲ爭ヒテ騷擾セリ、一條天皇ノ時ニ、再ビ延暦寺ノ座主ヲ爭ヒ、遂ニ圓珍ノ徒ヲ延暦寺ヨリ放逐セリ、是ニ至リ、圓珍ノ徒復タ延暦寺ニ住セズシテ、園城寺ニ住スルコトヽナレリ、是レヨリ二寺始メテ隙ヲ構ヘ、爭亂常ニ絶ユルコト無シ、是レ何ゾ藤原氏ノ兄弟ノ、攝關ノ位ヲ爭フニ異ナラシヤ、

當時諸國ノ武士兇暴ニシテ、法ヲ犯ス者頗ル多カリシガ、諸寺ニモ亦惡僧ノ常ニ兵器ヲ帶ビタル者多ク集レリ、故ニ僧ハ、藤原氏ノ驕奢ト、武家ノ兇暴トヲ兼ネタレドモ、尚ホ其特典ヲ失フコトナカリキ、白河法皇剛斷ニシテ、相家ヲ抑制シ給ヒシカド、僧徒ノ凶暴ニ至リテハ、之ヲ制スルコト能ハズ、嘗テ歎ジテ宣ハク、天下朕ノ意ノ如クナラザル者ハ、惟鴨川ノ水ト、雙陸ノ采ト、山法

師ノミト、山法師ト八、比叡山即チ延暦寺ノ僧徒ヲ云フナリ、

第十五課　僧徒ノ暴横(二)

高倉天皇ノ治承年間ニ、加賀守藤原師高其子師經ヲシテ已ニ代リテ任ニ赴カシメシガ、師經ノ從者、泉涌寺ノ僧ト忿爭セリ、師經之ヲ怒リ、兵ヲ率ヰテ寺ヲ燒キ、潛ニ京師ニ還レリ、是ニ於テ加賀ノ僧徒、白山ノ神輿ヲ奉ジテ、延暦寺ニ至リ、延暦寺ノ僧徒、亦之ヲ援ケテ、日吉白山ノ神輿ヲ奉ジテ京ニ入リ、師高ヲ流サンコトヲ乞ヘリ、朝廷

乃チ源平ノ將士ヲシテ、宮城諸門ヲ守ラシム、僧徒達智門ニ進ミシガ、守將源頼政神輿ヲ望見シテ拜伏シ、人ヲシテ僧徒ニ謂ハシメテ曰ク、頼政平生山王ヲ崇信スルニ由リ、今日一矢ヲ發スルニ忍ビズ、且ツ吾ガ兵力未ダ公等ヲ禦グニ足ラズ、平内府兵三萬ヲ以テ、陽明門ヲ守レリ、公等之ヲ衝突シテ神威ヲ示サバ、何ヲ訴ヘテカ獲ザラン乎、若シ吾ガ微弱ヲ侮リテ、此門ヨリ入ラバ、吾只一死アルノミト、僧徒相顧ミ直ニ轉ジテ陽明門ニ赴ク、重盛之ヲ禦ギ、數人ヲ射殺セシカバ僧

徒神輿ヲ棄テ、逃レタレドモ、後數日ニシテ、師高ヲ尾張ニ流シ、又重盛ノ兵士成田爲成モ、神輿ヲ射タルニ坐シテ、伊賀ニ流サレタリトヅ、當時平清盛政權ヲ握リ、威力天下ニ振ヒタレドモ、諸寺ノ僧徒ノ屢、京師ヲ擾スヲ患ヘ、遂ニ都ヲ福原ニ遷シテ、之ヲ避クルニ至レリ、其後諸寺ノ僧徒、源氏ニ應ジタルヲ惡ミ、園城寺、興福寺、東大寺ヲ攻メテ之ヲ燒キシカバ、佛寺始メテ武人ノ爲ニ困メラレタレドモ、獨リ延曆寺ノミハ、近畿ニ盤據シテ、勢力益、強シ、鎌倉ノ時ニ及ビ源賴朝

及ビ北條泰時、皆山徒ノ兇暴ヲ惡ミ之ヲ摧折セント欲セシガ、遂ニ其意ヲ達スルコト能ハザリキ、

斯ク從來ノ佛教ハ已ニ腐敗シテ、佛門ノ本旨ニ背キ、人心ノ歸依ヲ失ヒシカバ、豪傑ノ徒、其間ニ自立シテ、各、一宗ヲ弘通スルニ至レリ、釋良忍ハ、始メテ念佛宗ヲ唱ヘ、源空ハ、始メテ淨土宗ヲ弘通シ、親鸞ハ始メテ一向宗ヲ唱ヘ、日蓮ハ始メテ題目宗ヲ唱フル如キ、卽チ是レナリ、又僧榮西禪宗ヲ弘通セシガ、鎌倉ニハ禪宗大ニ行ハレタリ、

蓋シ北條氏ノ政ヲ爲スヤ、自ラ勤儉ヲ以テ身ヲ率ヰ、絶エテ浮華虛飾ノ弊アルコトナク、天下大ニ治レリ、是レ或ハ禪宗ノ教化モ、亦與リテカアリシナランカ、

第十六課　亞麻ノ話

亞麻ハ、一年生ノ植物ニシテ、其根纖維狀ヲ爲シ、幹ノ高サハ、凡ソ二尺許ナリ、其葉ハ互生ニシテ、直ニ幹ニ著キ、其花ハ青色ニシテ幹端ニ開キ、卵巢狀ノ實ヲ結ブ、又其實ニハ、五窩ヲ備ヘ、每窩ニ二個ノ光澤アル種子ヲ含メリ、

亞麻ハ其生育ノ限界極メテ廣クシテ溫帶地方ハ、論ヲ待タズ、熱帶地方ニモ、亦能ク繁殖ス、往時ハ、農家之ヲ植エテ、唯一家ノ用ニ充ツルニ止リシガ、今ハ其用殊ニ廣ク、歐米諸國ニ於テハ、蒸氣機械ヲ以テ之ヲ製造スルニ至レリト云フ、

亞麻ヨリ其纖維木質ヲ取ルニハ、開花ノ後之ヲ拔キ取リ、日ニ乾シテ後、聚メテ之ヲ水中ニ浸シ綠色ノ外皮ヲ腐化セシム、之ヲ濕腐法ト稱ス、斯ノ如クシテ再ビ之ヲ乾シ重キ木槌ヲ以テ之ヲ打チテ、全ク其纖維ヲ分離セシメ、而シテ後之ヲ

晒シテ紡績者ニ交附ス、

右ノ如クシテ製シタル麻ハ、唯粗雑ナル麻布類ヲ織リ出スベキノミ、若シ精細ナル線帯ノ類ヲ製造センニハ、更ニ細密ノ梳麻器械ニ掛ケ、再三之ヲ梳ラザルベカラズ、

第十七課　愚人已ガ影に怖る

今は昔、受領の郎等に心ハれくきて、人にたけく見えんと思ふをとこありけり、ある日曉ふ外へ行かんとて用意しけるに、其妻未明ふ起きて、くひもの、まうけをせんとするに、有明の月の板間よりさし入りたる光まて、れのが影のうつりたるを見て、大ふれそれて、あまてきまぎつ、夫が臥したるそをふにげ行きて、夫が耳ふさゝやきけるハかしこに髪おろ〳〵とした為、ものらはぬをびとが、入りてたちとるふり、出でて見たまへと云へを、夫そきハいかにせんとするにや、ねたき事かなと云ふまゝに、枕上ふかけとる太刀をとりて、其やつ首打ち落さんとの、しりて、髪うち亂しるゞら、裸まて出でけるが、月影にれのが かげのうつりしを見て、童ふあらで、太刀ぬきた

るをとこにこそありけるばかなふまどふる
ひとなくきをうときけびて、ふげ入り、妻ふ向ひ
て、ヨれもこハ、うるさきつもものゝ妻とこそれ
もひつるに、何を見あやまりたるるや、ヨらもぬ
をびとふハあらで、髪亂したる男の、太刀ぬきて
もちたるにこそありつゝきれども此盗人臆病
ものと見えて、我ゞ出でたるを見て、持ちたる太
刀を落をかりふるひつゝ、我ハ外へゆく門出
なれゝはかなき疵被らんもよーあゝ、女をそよ
も切らゞ、行きて追ひ出をべーと云ひて、衣を引

かぶりて臥ーたり、妻いとく、甲斐なき事かり、斯
くて弓矢を取りて仕へ給ふふや、いで我行きて
見んとて立ち出づる、夫のそをにありける紙障
子にあたりけきバ、たふきて夫ゞ上ふれ伏ひぬ、
夫これハ盗人ゞれそひかゝ、ヨたりと心得て、聲
をあげてさけびけきバ、妻ゞいとく、盗人もはや
く立ちきりたヨ、その上ふるハ、障子のたふを掛
りたるなりといふ時、夫起きあゞり見るに、盗人
もふけきバ居直りて、ただかふる脇をかきて、手
をねぶりて、そのやつ誠に我ゞ許ふ入り來りて、

物取りて去りぬんや、盗人やつ障子をふみかけて去りにけり、入りて去をーあらせーかを必ず搦めてまー、ヨたもとの拙くて、斯くえにがーつるとと云ひけきバ、妻ハあききてぞ笑ひける後ふ妻ゞ人ふ語りけるを聞き傳へて、斯くぶんかたりけるとなり、今昔物語

第十八課　中國路(二)

安藝ニ入レバ、丘陵多クシテ道路頗ル高低アリ、廣島ハ、大田川ノ口ニアリ、中國第一ノ都會ニシテ、其地ノ人ハ、山陽ノ大坂ナリト誇稱セリ、廣島縣廳ノアル處ナリ、市街ノ廣サ方一里ニシテ人口殆ド六萬アリ、廣島ヨリ大田川ニ沿ヒテ北ニ進メバ、可部ト云フ驛アリ、是ヨリ道二岐ニ分レ、一ハ北行シテ石見ニ入リ、一ハ東北ニ進ミ、吉田ト云フ名邑ヲ經テ備後ノ三次ニ至ルベシ、又廣島ヨリ海路五里ニシテ嚴島アリ、此島ハ、周回七里餘アリテ、中央ニ彌山ト云ヘル高峯アリ、四邊ノ眺望甚ダ佳ナリ、大陸ニ向ヒタル海岸ニ嚴島神社アリテ、殿宇ノ結構壯麗ヲ極メ、數百間ノ廻廊ハ、崖ニ倚リ水ニ架シ、汐滿ツレバ、詣客皆海上

ヲ行々ノ想アリト云フ、是レ卽チ日本三景ノ一ナリ、

廣島ヨリ海岸ニ沿ヒテ、中國路ヲ行クコト十里餘ニシテ、周防ノ關戸ニ至ルベシ、關戸ヨリ一里ニシテ、岩國川ヲ渡リ、岩國ト云フ名邑ニ至ル、岩國川ニ架シタル錦帶橋ハ、其奇巧ヲ以テ著名ナリ、此川ハ急流ニシテ、橋杭ヲ立ツルモ、水其根ヲ掘リ起シテ、永存スルコト能ハズ、故ニ水底一面ニ石ヲ敷キ、其上ニ又石ヲ疊ミテ、四柱ヲ設ケ、其間ニ五橋ヲ架シタル者ニシテ、其橋ノ長サハ、通

ジテ百五十間ナリト云フ、兩端ノ二橋ハ橋杭ヲ用フレドモ、他ノ三橋ハ、石柱ヨリ石柱ニ架スルノミナリ、其構造今ノ眼鏡橋ナル者ニ同シト云フ、岩國ヨリ十里餘ニシテ德山ニ至リ、又七里餘ニシテ宮市ニ至ルベシ、此處ハ、菅原道眞ノ左遷ノ時ニ立チ寄リ給ヒシ所ニテ壯麗ナル天滿宮ノ社アリ、宮市ヨリ西北ニ行ケハ山口ニ至ル、此國第一ノ都會ニシテ、長門萩ニ至ル路ニ當レリ、宮市ヨリ西ニ進ミテ長門ニ入リ、清末豐浦等ヲ經テ、赤間關ニ至ル、赤間關ハ一名下ノ關ト稱シ、

早鞆ノ海峽ニ臨メル港ニシテ、南海ヨリ西海北海ニ航スル船舶ハ、皆此港ヲ經ザルハナク、市街爲ニ殷賑ナリ壇浦ハ、源平ノ古戰場ニシテ、阿彌陀寺ニ安德天皇ノ山陵及ビ平家一門ノ墳墓アリ、此邊ノ蟹ハ、甲ニ人面ノ如キ形ヲ現ハシテ憤怒セル者ニ似タリト云フ、故ニ世俗之ヲ平家蟹ト名ヅク、

萩ハ、日本海ニ臨ミテ、阿武川ノ口ニアリ、昔時長藩ノ城下ナリシヲ以テ、戸數人口頗ル多シ、指月山ハ毛利氏ノ城跡ナリシカ風景ノ絶佳ナルヲ以テ、今ハ公園トナレリ、萩ヨリ山口ニ至ル路ハ、山ニ上リ谷ニ下リ、嶮峻ナル處少カラズ、又石見路ハ、海岸ニ沿ヒテ東行シ、石見ノ飯浦ヲ經テ、濱田ニ至リ、東南ニ進ミテ山路ヲ越ユレバ、津和野ニ至ル、皆里程十二里餘ナリ、

第十九課　蒸氣車

蒸氣ヲ利用シテ、瀛車ヲ陸上ニ回轉セシムルニハ、其道路ヲ修築セザル可カラズ、是ニ於テ、鐵道ノ設ケ起ル、而シテ鐵道ヲ敷設スルニハ、先ヅ其基礎ヲ平坦ニシ、務メテ水平ニ設置スベシ、蓋シ

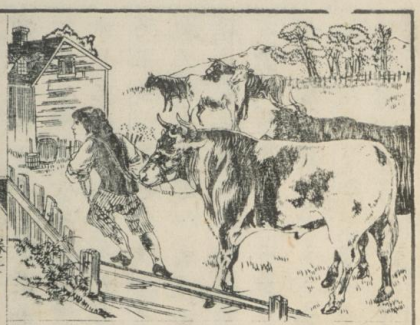
瀛車ハ、必ズシモ平原廣野ノミヲ走ル者ニ非ズ、國ノ形勢ニ由リテ、或ハ山谷ヲ經過シ、或ハ沼澤河湖ヲ往來セザル可カラズ、故ニ淺谷小河ノ如キハ、更ニ橋梁堤防ヲ築造シテ、略ボ陸地ト平坦ナラシムルコトヲ得ト雖モ、其深サ幾千仞ナル谿谷等ニ至リテハ、釣橋ヲ架シ、峻山高嶺ハ、之ヲ穿チテ隧道ヲ作リ、沼河ハ長橋ヲ設クテ之ヲ通ゼザルベカラザレバ、其工業ノ大ナルト、費用ノ夥シキトハ、亦他ニ其類ヲ見ザル所ナリ、

鐵道ニハ、横ニ硬木ヲ渡シ、其上ニ鐵軌ヲ敷設シ、以テ列車ヲ進行セシム、斯ク鐵軌ヲ設クル所以ハ、專ラ列車ノ方向ヲ指示シ、且ツ其回轉スル時ニ當リテ、車輪ノ摩擦ト抵抗力トヲ減ゼンコトヲ謀ルナリ、而シテ列車ノ一時間ニ經過スル里程ハ、凡ソ五英里ヨリ十英里ヲ通常トス、時ニハ猶ホ最大ノ速力ヲ以テ回轉セシムルモノアリ、サレド斯ル速力ヲ加フルトキハ、往々甚シキ危險ナシト云フ可カラズ、又列車ニハ、客車椅車等ノ別アレドモ、皆一ノ機關車ノ運轉スル所ナリ、

第二十課　をてぶんそんノ傳(一)

英國にゆうかをとれト云フ處ニ、ドよドをてぶんそんナル人生レ出ヅ時ニ一千七百八十一年ナリ、此人ハ、わつと氏ノ大業ニ續ギテ、瀛車ヲ鐵道上ニ廻轉セシムルコトヲ發明セリ、

をてぶんそんノ家ハ、貧ニシテ儋石ノ資財アルコトナシ、故ニ幼ニシテ學業ヲ修ムルコト能ハズ、常ニ他人ノ爲ニ勞役シテ、其生活ヲ營ムニ過ギズ、嘗テ牧童トナリテ、一寡婦ノ爲ニ牝牛ヲ牧セシガ、其賃金ハ一日僅ニ二十ペンニヒナリ、此時其齡始メテ九歲ナレドモ、日々牧場ニ出デテ



孜々其業ヲ怠ルコトナシ、偶、暇アルトキハ、牧場ニ近キ小川ノ岸ニ到リ、粘土ヲ以テ、小屋ヲ築造セリ、已ニ小屋ヲ落成スレバ家ニ歸リテ小キ水車ヲ構造シ之ヲ回轉シテ以テ戲トナセリ、稍長ズルニ及ビテ、農家ニ雇ハレ、農業ニ從事シテ、一

日四十ペンニヒノ賃金ヲ得ルニ至レリ、
已ニシテ農家ヲ辭シ、更ニ又石炭坑ノ炭焚夫トナリシガ、黽勉其業ヲ怠ラザリケレバ、齡十五歲ニシテ、一等給ヲ支給セラレ、二年ヲ經テ、遂ニ炭坑工業場ノ機械番人ニ昇進セリ、其父モ亦此工場ノ炭焚夫ナリシガ、今ハまてぶんそんノ部下ニ使役セラルヽニ至レリ、サレドモまてぶんそんノ斯ク昇進セシニ由リ、親子ノ生計稍裕ナリシカバ、大ニ之ヲ喜ビシトゾ、但シまてぶんそんハ、讀書習字ヲ知ラザリケレバ、此時ヨリ夜ニ入

レバ、必ズ學校ニ通學シテ、略ボ讀書習字ニ通ズルニ至レリ、年二十歲ニシテ、工場ノ技師トナリ、他ノ職工之ニ及ブ者ナキニ至レリト云ヘバ、其賃金ノ如キモ、亦昔日ノ比ニアラザルベシ、此工場ノ近傍ハ、市街地ニアラザルヲ以テ、不便尠カラズシテ、一ノ靴師ダモアルコトナク、偶靴ヲ新調シ、或ハ之ヲ修繕セント欲スレバ、遠ク市街ニ至ラザルベカラズ、まてぶんそんハ、其穿テル靴ノ破レテ用ニ立タザリケレバ、市街ニ至リテ韋ヲ購ヒ來リ、自ラ之ヲ製造シタリシガ、其靴

ハ、敢テ熟達シタル靴師ノ製品ニモ劣ラザリシト云フ、常ニ節儉ヲ主トシ、得ル所ノ賃金ハ、一錢タリトモ無益ニ費スコトナク、其貯蓄スル金貢モ亦尠カラズ、因リテ遂ニ一家ヲ購ヒ、農家ノ女ヲ娶リテ、薪水ノ勞ヲ取ラシメ、日常ノ家具破損スルトキハ、そてぶんそん自ラ之ヲ製造セリ、偶其妻人ノ爲メニ衣服ノ裁縫ヲ託セラルレバ、夫先ヅ之ヲ裁スルヲ常トス、而シテ衣ヲ裁スルニモ、常ニ尺度ヲ用ヒザルモ、更ニ長短ノ度ヲ誤ルコト無シ、且ツそてぶんそんハ、或ハ冶工トナリ

或ハ木匠トナリ、或ハ泥工トナリ、或ハ時計ヲ製造セシコトモアリト云フ、後數年ニシテ、其妻病ニ罹リテ死シ、其父明ヲ失ヒ、大ニ負債ヲ增シタリシガ、そてぶんそんハ、爲ニ已ノ貯金ヲ抛チ、老父母ノ爲ニ、新ニ一家ヲ購ヒテ之ニ住ハセ、其終ヲ全クセシメタリトヅ、

第二十一課　そてぶんそんノ傳(二)

そてぶんそんハ、常ニ心ヲ機械ニ注ギ、遂ニ巧妙ナル喞筒ヲ構造シ、是レヨリ大ニ世人ノ尊ブ所トナリ、工場ニ於テ機械士ノ名ヲ得ルニ至レリ、

常ニ自ラ蒸氣力ヲ利用シテ車輪ヲ回轉セシメンコトヲ計リ、專ラ瀛車ノ發明ニ從事セシガ、數年ノ後、遂ニ炭坑場ニ鐵道ヲ設ケ、小車ヲ鐵道ニ回轉セシメ、以テ石炭ヲ運搬スルノ便ニ供セリ、是ニ於テ瀛車ヲ發明セント欲スルノ念、益禁ズルコト能ハズ、其翌年ニ至リ、炭坑所有者ニ謀リ、八個ノ列車ヲ連ネ、蒸氣力ヲ利用シテ、之ヲ鐵道ニ回轉セシムルニ至レリ、第一着ノ鐵道卽チ是レナリ、時ニ西曆一千八百十四年ナリ、

是レヨリもてぶんそんハ益心ヲ瀛車ノ製造ニ

傾ケ、完全ナル者ヲ發明セント欲シテ、千思萬考寢食ヲ忘ルヽモノヽ如シ、己ニシテ英國政府ヨリもてぶんそんニ命ズルニ鐵道ノ敷設ヲ以テセリ、もてぶんそん乃チ其子ろべるト等ヲ伴ヒ、鐵道ノ實測ニ從事シ後二年ニシテ鐵道ノ建築ヲ落成シ、車ヲ其上ニ回轉セシメテ、大ニ旅客ニ便ナラシムルニ至レリ、時ニ一千八百二十五年ナリ、更ニ又りぷあぷる府ヨリ、まんちゆもたあ府ノ間ニ、鐵道ヲ敷設シ、蒸氣力ヲ利用シテ、列車ヲ回轉セシメント欲シ、五年ヲ經テ之ヲ成功

セリ實ニ一千八百三十年ナリ、
是ニ於テもてぶんそんノ名望海内ニ轟キ昔日
ノ炭焚夫ハ今ハ紳士トナリ、儋石ノ資財ニ乏キ
貧人モ遂ニ陶朱ノ富ヲ積ムニ至レリ、サレドもて
ぶんそんハ其舊時ヲ忘ル、コトナク、益節儉
ヲ守リテ、驕奢ニ流ル、コトナク、常ニ貧民ヲ憫
ミ、懶惰ニシニ其業ヲ營マザルモノハ、之ヲ奬勵
シ、或ハ不幸ニシテ疾病ノ爲ニ其業ヲ營ムコト
能ハザル者アレバ、必ズ資金ヲ與ヘテ其業ニ從
事セシム、故ニ朝野皆もてぶんそんヲ貴ブコト、

神ノ如シ、常ニ少年ヲ集メテ之ニ語リテ曰ク、吾
幼ニシテ貧困ナリシニ由リ、學ニ就クコト能ハ
ズ、二十歳ニシテ、始メテ學校ニ入リ、遂ニ今日ア
ルニ至レリ、諸子モ亦百折撓マズ屈セザレバ如
何ナル大事業タリトモ、必ズ成就スルコトヲ得
ベシ、抑吾人ノ世ニ生ル、ヤ、國家ノ裨益ヲ謀ル
ニ在リ、國家ノ裨益ヲ謀ラント欲スレバ、必ズ堪
忍力ヲ養ハザルベカラズ、能ク堪忍シテ、而シテ
後始メテ大事業ヲ成スコトヲ得ベシ、諸子苟モ
已ノ目的ヲ達セント欲セバ、宜シク百折不撓ノ

セリ實ニ一千八百三十年ナリ、

是ニ於テもてぶんそんノ名望海内ニ轟キ昔日ノ炭焚夫ハ今ハ紳士トナリ、儋石ノ資財ニ乏キ貧人モ遂ニ陶朱ノ富ヲ積ムニ至レリ、サレドもてぶんそんハ其舊時ヲ忘ルヽコトナク、益節儉ヲ守リテ、驕奢ニ流ルヽコトナク、常ニ貧民ヲ憫ミ、懶惰ニシテ其業ヲ營マザルモノハ之ヲ奬勵シ、或ハ不幸ニシテ疾病ノ爲ニ其業ヲ營ムコト能ハザル者アレバ、必ズ資金ヲ與ヘテ其業ニ從事セシム、故ニ朝野皆もてぶんそんヲ貴ブコト、

神ノ如シ、常ニ少年ヲ集メテ之ニ語リテ曰ク、吾幼ニシテ貧困ナリシニ由リ、學ニ就クコト能ハズ、二十歳ニシテ、始メテ學校ニ入リ、遂ニ今日アルニ至レリ、諸子モ亦百折撓マズ屈セザレバ如何ナル大事業タリトモ、必ズ成就スルコトヲ得ベシ、抑、吾人ノ世ニ生ルヽヤ、國家ノ裨益ヲ謀ルニ在リ、國家ノ裨益ヲ謀ラント欲スレバ、必ズ堪忍力ヲ養ハザルベカラズ、能ク堪忍シテ、而シテ後始メテ大事業ヲ成スコトヲ得ベシ、諸子苟モ已ノ目的ヲ達セント欲セバ、宜シク百折不撓ノ

念ヲ具ヘザルヘカラズト、後遂ニ卒中症ニ罹リテ歿セリ、享年六十七ナリ、其死ヲ聞キ、朝野大ニ之ヲ悼惜セリト云フ、

第二十二課　鯨ノ話

鯨鯢ハ、海中ニ棲ム獸類ナリ、雄ヲ鯨ト云ヒ、雌ヲ鯢ト云フ、頭大ニシテ頸ナシ、幼時ハ齒ヲ具フレドモ、早ク脱落シテ、上顎ニ角質ノ板ヲ生ズ、俗ニ之ヲ鯨鬚ト云フ、其數三百枚ヨリ千枚ニ至ルモアリ、其形扁平ニシテ三稜形ヲ成シ、纖維狀ニシテ彈力アリ、蓋シ此鯨鬚ハ、食餌ノ中ニ混スル水ヲ漉過スルノ用ニ供フルナリ、之ニ二箇ノ噴水孔アリテ、時々水氣ヲ噴ク、其狀恰モ湧泉ノ如シ、目ハ小ニシテ、耳ハ外殼ヲ具ヘズ、其ニ口角ノ上邊ニ位セリ、其體ノ大サハ、哺乳動物中ノ冠タリ、鯨ノ咽喉ハ、極メテ小ニシテ、大魚ヲ食フコト能ハズ、主トシテ小魚ノ類ヲ食フ、而シテ鯨類ヲ漁獲スル者或ハ繩ヲ鉤矛ニ繫ギテ之ヲ突キ、或ハ大砲ヲ放チテ之ヲ擊殺ス、就中鉤矛ノ尖端ニ或ル藥物ヲ入レテ之ヲ突ケバ直ニ死スト云フ、蓋シ近來ノ發明ナリ、

其皮下ニ、半バ流動セル脂肪質アリ、大ナル者ハ、其厚サ二尺餘ニ至ル、北極地方ノ人ハ、之ヲ以テ飲料ニ供シ、又醫藥ニ用フルコトアリ、此脂肪ヲ溶解スルノ際軟骨及ビ諸廢物ヲ以テ膠ヲ製ス、之ヲ鯨膠ト云ス其肉ハ食フベシト雖モ、之ヲ嗜ム者少シ、或ハ其腹皮ヲ取リテ窓障ト爲ス處アリ、猶ホ歐洲人ノ玻璃板ヲ用フルガ如シ、又骨ハ以テ鉤子ヲ製スヘク、腱ハ、以テ紐ヲ製シ、血液ハ以テ染料ニ用フ可シ、特ニ鯨鬚ヲ百ヲノ用ニ供スルハ、普ク世人ノ知ル所ナリ、

第二十三課　中國路(三)

我等ハ是ヨリ更ニ山陰諸國ノ都邑ヲ遊覽シ、名所古跡ヲ探リテ、復ビ畿内ニ歸ラントス、

石見ノ名邑ハ、濱田大森益田津和野等ナリ、津和野ヨリ北行シ、高津川ニ沿ヒテ下レバ、海濱ニ高津村ト云フ處アリ、茲ニ柿本神社トテ、柿本人丸ヲ祀レル社アリ、是レヨリ海岸ニ沿ヒテ東行シ、益田濱田ヲ過ギテ、出雲ニ入ル、石見ノ村里ニハ、甘薯代官ノ石碑ヲ建ツル處多シ、是レ往[illegible]代官井戸平左衛門ナル人、此國ニ來リテ、甘薯ヲ植ウ

ルコトヲ教ヘタルニ因リ、國人爲ニ飢饉ヲ免レタレバ、其德ヲ忘レザルガ爲ニ、到ル處ニ石碑ヲ建テタルナリト云ヘリ、

出雲ニ至レバ、杵築町ニ有名ナル出雲大社アリ、松江ハ、宍道湖ノ東岸ニ在リ、山陰第一ノ繁華ナル都會ニシテ、風景絶勝ナリ、島根縣廳ノアル處ナリ、安來ハ錦海ニ沿ヒテ、國ノ東境ニ在リ、亦通商繁盛ナル一都會ナリ

錦海ニ沿ヒテ伯耆ニ入レバ、米子ト云ヘル港アリ、此處ヨリ北ニ突出シタル沙嘴ヲ、夜見濱ト云ハ、其北端ニ境ト云フ港アリ、國ノ中央ニハ、船上山ト名ヅクル一峯アリ、昔名和長年ノ後醍醐天皇ヲ奉ジテ、立テ籠リタル所ナリト云ヒ傳ヘリ、東海邊ニ東郷ノ湖アリ、其湖中ニ小島アリテ溫泉湧キ出ヅ、

因幡ニハ、賀露川ノ東ニ、鳥取ト云フ都會アリ、鳥取縣廳ノアル處ナリ、因幡山ハ、古ハ宇倍山ト云ヒシトヅ、其山上ニ宇倍神社アリ、武内宿祢ヲ祀レリ、但馬ニ入ルニ二道アリ、一ハ濱街道ニシテ、一ハ本道ナリ、本道ヨリ但馬ニ入レバ、村岡ト云

フ名邑ヲ過ギ、八鹿ノ驛ニテ、播磨街道ニ合ス、又濱街道ハ、海岸ニ沿ヒテ、豊岡ニ至ル、豊岡ノ東ニ朝來川アリ、其河口ニ近キ湯島ハ、有名ナル溫泉場ナリ、又川ニ沿ヒテ南ニ上リ、播磨ノ境ニ近キ處ニ、生野ト云ヘル名邑アリ、此處ハ鑛山ヨリ金銀銅ヲ採掘スルコト、毎年莫大ノ高ナリト云フ、豊岡ヨリ出石ヲ經テ、上尾峠ヲ越ユレバ、丹波ノ福知山ニ至リ、更ニ進ミテ園部亀山等ノ名邑ヲ過ギテ、山城ニ入ルナリ、亀山ヨリ京都マテハ、里程六里ナリ、又福知山ヨリ北ニ進メバ、丹後ノ宮津ト云フ繁華ナル港ニ至ル、其海ヲ與謝ノ海ト云ヒ、一條ノ沙嘴海ヲ横キリテ斗出シ、其狀恰モ橋ノ如シ、是レ卽チ日本三景ノ一ナル天橋立ニシテ、青松之ニ茂生シ、翠嵐白波相映シテ、其風景眞ニ畫ケルカ如シ、舞鶴ノ入江ニ、舞鶴ト云フ港アリ、亦一ノ良港ナリ、是レヨリ東ニ進メバ、若狹ノ小濱ニ至ルベシ、

第二十四課　封建及ビ郡縣

大化改新ノ時、前朝置ク所ノ子代民、處々ノ屯倉及ビ諸臣ノ部曲田莊ヲ罷メ、國司郡司ヲ置キテ

政治ヲ布キ給ヘリ、サレドモ猶ホ舊族ヲ遺テ給ハズ、國造ノ清廉ニシテ、時務ニ堪フル者ヲ取リテ、郡ノ大領小領トナシ、其民ニ臨ミテ功勞アル者ハ、其官ヲ世襲セシム、譜第ト云ヘル者卽チ是レナリ、

其後延曆年間ニ至リ、郡職ノ弊アルヲ以テ、譜第ヲ廢シテ、才良ヲ取ルニ至レリ、然ルニ人皆舊故ニ安ズルノ勢アリテ、民心猶ホ譜第ニ歸シテ、新任ヲ悅バザル者ノ如シ、弘仁年間ニ至リ、詔シテ郡ノ大少領ハ、終身ヲ以テ限リトセリ、而シテ國司ハ、四年ヲ以テ任期トシ、朝廷ヨリ派遣セラレタリ、大寶ノ頃ハ、朝廷國司ヲ待ツコト尤モ厚ク、食祿亦饒裕ナリシカバ、庶僚皆外任ヲ望ミシガ、其後朝綱稍弛ミ、群盜諸國ニ橫行セシカバ、國司之ヲ畏避シテ、任ニ赴クコトヲ欲セス、郡國始メテ多事トナレリ、

此時ニ當リテ、所在ノ豪族其欲ヲ肆ニシ、爭ヒテ田園ヲ占メ、山川ヲ據有セリ、之ヲ莊園ト云フ、又國分寺ノ地領及ビ諸寺ノ私有スル田園多クシテ天下ニ不輸ノ地少カラザルニ由リ、國司ノ統

轄スル所ハ、百分ノ一ニ過ギザリシト云ヘリ、是レヨリ國司復タ任ニ赴カズ、地方ノ豪族ヲシテ之ヲ攝行セシム、之ヲ目代ト云フ、是ニ於テ、地方政治益〻亂レテ、統一スル所ナシ、建久年中ニ、源頼朝奏シテ、國衙ニ守護ヲ置キ、莊園ニ地頭ヲ置キ、所在ニ就キテ盜賊ヲ捕ヘンコトヲ請ヘリ、朝廷之ヲ許ス、又諸國ノ段別ニ米五升ヲ課シテ、兵粮ニ充テタリシガ、是レヨリ天下ノ政權ハ、悉ク鎌倉ニ歸シ、守護地頭往々其職ヲ世襲シテ封建ノ形ヲ爲セリ、サレドモ守護職ハ、元來國司ヲ助ク

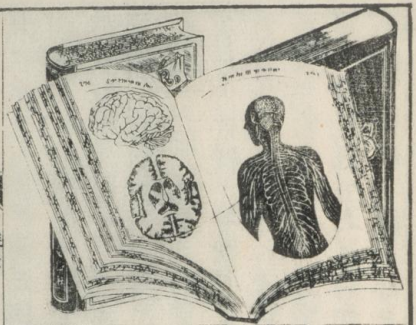
ル者ニシテ、其分限固ヨリ賤シカリシトゾ、

建武中興ノ時、功臣ヲ賞スルニ國ヲ以テシ、縉紳貴族ニハ國司ト稱シ、武人ニハ守護ト稱セシム、其名異ナレドモ、其實ハ同ジクシテ、鎌倉ノ補スル所ノ如クナラズ、其後足利氏功臣ヲ賞スルニ國ヲ以テセシガ、守護ノ名ヲ用ヒテ、其國土ヲ私有セシメ、封建ノ制全ク成レリ、然レドモ其封土廣大ニ過ギ、反亂止ム時ナクシテ、遂ニ戰國ニ終レリ、德川氏ニ及ビ、親藩外樣譜第ノ大名ヲ定メ、巧ニ内外輕重ノ權衡ヲ持シ、以テ無上ノ太平ヲ

致セリ、是ニ於テ、封建ノ勢一定シテ、再ビ動カス可カラザルガ如クナリキ、然ルニ王政維新ニ至リ、封建ノ制度ヲ一變シテ、郡縣ト定メラレケレバ、諸大名悉ク封土ヲ奉還シテ、土地人民始メテ王政ノ下ニ歸スルニ至レリ、是レ我ガ國ニ於ケル封建ト郡縣トノ沿革ナリ、

第二十五課　腦髓(一)

腦髓ハ頭蓋骨内ニ位スル貴重ノ器ニシテ、心意諸作用ノ發スル本府ナリ、其形卵圓ニシテ表面ハ凹凸不齊ナリ、腦ノ本質ハ、柔軟ニシテ、壓迫ヲ



受クレバ、輙ク其形ヲ變ズ、前部ハ一ノ深溝ニ由リテ、左右ノ二個ニ分レ後部ハ神經纖維ニ由リテ、互ニ相連結セリ、而シテ其構造大小、形狀、位置ノ異ナルニ由リ、之ヲ分チテ大腦、小腦及ビ延髓トナス、

腦ハ、三層ノ膜ニ由リテ

被包セラル、其外層ヲ硬腦膜ト云ヒ、中層ヲ蜘蛛網膜ト云ヒ、内層ヲ軟腦膜ト云フ、是レ一ハ其摩擦ヲ防ギ、一ハ腦ニ營養ヲ供給スルモノナリ、大腦ハ、頭蓋骨内ノ最大部ナリ、其質ハ、外部ハ灰白色ニシテ、數多ノ皺襞アリ、其内部ハ、白質ヨリ成リテ、延髓ト脊髓トノ纖維ニ連繫シ、又大腦ノ左右ニハ、横斷セル大束横纖維アリテ、互ニ相連合セリ、蓋シ大腦ノ組織ハ未ダ判然セザル者アルヲ以テ、茲ニ之ヲ詳記セズ、

小腦ハ、大腦ノ後下部ニアリ、其構造ハ、大腦ト同

ジク、外部ハ灰白質ニシテ、内部ハ白質ヨリ成ル、而シテ其灰白質ハ、許多ノ狹キ薄層相排次シテ、迂曲重疊ス、其方向ハ、概ネ横走シテ、白質ヲ圍包セリ、但シ脊髓柱ハ、延髓ヲ通過スルトキ、其纖維ヲ分チテ、小腦ノ全部ニ擴布シ、遂ニ其表面ノ灰白質ト連繫ス、

大腦ハ、心意諸作用ノ發スル所ニシテ、精神力ノ全身ニ交通スルハ、一トシテ神經系中ノ此區域ヲ經ザルハナシ、彼ノ推理、判斷、記憶、知覺等ノ諸能力ハ、共ニ大腦ノ能力ニ歸スル者ナルベシ、例

ヘバ、蝦蟇ノ大腦ヲ截斷スルニ、其外見ハ、少モ平常ニ異ナルコトナク、其運動ヲ廢セズシテ、久シク生活シ、肉片ヲ口内ニ致セハ、直ニ之ヲ嚥下シ、水中ニ投ズレバ、游泳シテ其運動平常ニ異ナルコトナシ、光ニ逢ヘバ瞳孔縮小シ、背ノ皮膚ヲ摩擦スレバ叫鳴シ、視神經ノ存スル間ハ、走歩スルモ、外物ニ衝突スルコトナシ、又嘗テ鳩ノ大腦ヲ除去セシニ、昏睡狀ト成リ、呼吸運動スルノミ、然レドモ之ヲ刺戟スレバ、眼ヲ開キ翼ヲ振ヒテ、少ク走歩セリ、斯ク蝦蟇モ鳩モ、運動ヲナスコト、平生ニ異ナラズト雖モ、其悟性意識等ハ、全ク消失スル者ノ如シ、

腦ノ各部ハ、體ノ各部ト連絡スルモノニシテ、腦ノ各部ヲ刺戟シ、或ハ之ヲ除去スレバ、身體ノ各部ニ、種々ノ變化ヲ生ズベシ、其他諸病ニ就キテ之ヲ考フルニ、腦ノ各官能ハ、必ズ一定ノ中樞ヲ有スル者ナリ、然レドモ方今吾人ノ覺知スルハ、只言語ノ中樞ノミニ過ギズ、而シテ此中樞ハ、左半球ノ第二第三ノ迂曲部ニアリト云フコト、稍判然タルガ如シ、

小腦ヲ除去シ、或ハ之ニ傷ツクルトキハ、隨意ノ運動ヲ失フコトナシト雖モ、運動ノ順序ヲ失ヒ、諸筋ノ作用相隨ハズ、此ノ如キ運動ヲ名ヅケテ、不整運動ト云フ、故ニ之ヲ鳥獸ニ試ミルニ、尚ホ能ク運動スレドモ運動不整ナルヲ以テ、走行及ビ飛揚スルコト能ハズ、故ニ小腦ハ、一定ノ目的ヲ達スル諸運動ヲ一致セシムル用ヲナス者タルコト明ナリ、

延髓ハ、其知覺及ビ運動ヲ傳フルコト、脊髓ニ異ナルコトナシ、延髓ノ神經中樞ハ、數個アレドモ、最モ緊要ナルハ、呼吸ノ中樞ナリ、故ニ此中樞ヲ毀傷シ、或ハ截斷スレバ、呼吸直ニ絶止シ、之ガ爲ニ直ニ斃死スル者ナリ、

第二十六課　養腦ノ心得

第一ニハ、飲食ヲ選ビテ、其量ヲ節シ、新鮮ノ空氣ヲ呼吸シ、身體ノ皮膚ヲ清潔ニスル等、總ベテ血液ヲ清純ナラシムベキ事ヲ怠ルベカラズ、蓋シ腦髓ハ、腦中ヲ循環スル血液ニ由リテ、滋養ヲ受クルモノナリ、故ニ血液清淨ナラザレバ、腦ノ滋養十分ナラズシテ、其作用ヲ發達セシムルコト

能ハズ、是レ腦髓ノ滋養ニ關シテ、最モ血液ノ清淨ヲ要スル所以ナリ、

第二ニハ、倦怠等ヲ覺ユレバ、即チ休息シテ心身ヲ安ジ、血液ノ循環ヲ順快ナラシムベシ、蓋シ腦中血液ノ循環極メテ順快ナルトキハ、腦髓ノ滋養ヲ十分ナラシムルノミナラス、腦中ニ滯留スル炭酸ヲ排除スルヲ以テ、大ニ腦力ヲ養ヒ、其健康ヲ保タシムベシ、若シ其循環順快ナラザレバ、腦髓ノ滋養十分ナラザルガ爲ニ、多少其發育ヲ妨グルノミナラズ、又炭酸ヲ排去シ能ハザルヲ以テ、大ニ其健康ヲ害スベシ、是レ腦髓ハ適當ノ安慰休息ヲ爲シテ、血液ノ循環ヲ順快ナラシムヘキ所以ナリ、

第三ニハ、甚シク腦髓ヲ感動セシムベキ事物ハ、總ベテ之ヲ避クベシ、蓋シ屢腦髓ヲ感動セシメ、或ハ其奮勵ヲ永續セシムルトキハ、大ニ腦ノ健康ヲ傷ヒ、腦力ヲ減殺セシムベシ、是ヲ以テ怒氣ヲ激發シ、憂患ニ沈欝スル等、總ベテ情感ノ激動ヲ戒ノ、務メテ心氣ヲ平穩ニスベシ、

第四ニハ、頭ヲ打擊シ或ハ劇突スル等、總ベテ頭

部ノ劇觸ヲ避クベシ、蓋シ頭部ノ劇觸ハ腦髓ニ振蕩ヲ起シ、其作用ヲ損傷スルコト往々少ナカラズ、是レ人々慎ミテ斯ル劇觸ヲ避クベキ所以ナリ、

第五ニハ、頭部ニ極熱ノ日光ヲ直受スベカラズ、又甚シキ寒水ヲ灌注スベカラズ、斯ノ如キ頭部ノ寒熱ハ、腦膜ニ疾病ヲ誘起スルコト少カラズ、幼兒ハ之ガ爲ニ發病スル者殊ニ多シ、是レ腦髓ヲ健全ニスルニ、此禁アル所以ナリ、

第二十七課　節儉ト吝嗇トノ別

世人多ク節儉ト吝嗇トヲ混同シテ、猥ニ人ヲ褒貶スルモノアリ、蓋シ其似テ非ナルヲ以テナリ、普魯西王ふりいどりひ、うゐるへるむ第三世ハ、寛仁大度ニシテ、能ク民情ニ通ジ常ニ節儉ヲ守リテ民ヲ撫育セシカバ、國富ミ兵強クシテ、人民太平ヲ謳歌シ、其在位中ハ、朝野肅然トシテ、毫モ政治ヲ批難スルモノナカリキ、

是ヨリ先キ、年甫メテ十歳ニシテ、皇太子タリシ時、一童子アリ、宮中ニ來リテ、林檎ヲ買ハンコトヲ請ヘリ、太子喜ビテ之ヲ求メントシ、近侍ニ其

價ヲ問ハシムルニ、五圓ナリト云フ、太子驚キテ曰ク、一籃ノ林檎、何ゾ利ヲ貪ルコトノ甚シキヤ、我敢テ五圓ヲ惜ムニアラザレドモ、斯ル高價ヲ以テ、之ヲ買フコトヲ欲セザルナリト、直ニ之ヲ宮中ヨリ逐ヒ出サシム、

時ニ近侍又來リ奏シテ曰ク、常ニ宮中ニ出入スル靴工、太子ニ謁センコトヲ願ヘリト、太子ノ曰ク、靴工何ノ用アリテ、我ニ謁センコトヲ請フカ、曰ク、彼數十日以來病ニ罹リテ、其業ヲ執ルコト能ハズ、大ニ貧困ニ陷リシガ、今漸ク病癒エタル

ニ由リ、再ビ業ヲ營マント欲スレドモ、家ニ半錢ノ儲ナクシテ、革ヲ買フコト能ハズ、故ニ太子ニ二十圓ノ恩借ヲ願ヒテ、以テ其資本ニ供ヘントスルナリト、太子之ヲ憐ミ、近侍ヲ顧ミテ曰ク、我ガ金匣中尚ホ幾許ノ金アルカ、曰ク、尚ホ五十圓ノ存スルアリ、曰ク、我今靴工ノ困難ヲ聞クニ忍ビ難キ所アリ、故ニ其請ヲ許シテ、二十圓ヲ與フベシ、サレドモ之ヲ還納スルニ及バズト、其翌日靴工自ラ宮門ニ至リ、太子ニ拜謁シテ、其仁惠ヲ謝セントス、太子首ヲ掉リ之ヲ制シテ曰ク、我何

ヲ以テ汝ノ謝辭ヲ受ケンヤ、是レ却リテ汝ヲ辱シムルナリト、嗚呼太子幼冲ニシテ、此美德ヲ備ヘ、能ク節儉ト吝嗇トヲ辨別シテ誤ルコトナシ、他日英名ヲ輝シタルモ、亦偶然ニアラザルナリ、

第二十八課　大麻ノ話

大麻ハ、一年草ニシテ、高サ五尺ヨリ一丈ニ及ブ、其葉ハ手指狀ニシテ、五尖若クハ七尖ナリ、其各尖ノ形ハ、披針形ニシテ、粗キ鋸齒アリ、其花ハ、集リテ穗ノ形ヲ爲ス、而シテ一株ニシテ雌雄蘂各別花ナリ、其種子ヲ生ズルコト甚ダ多ク、之ヲ小

鳥ヲ飼フニ用フベシ、其幹ノ纖維ハ、亞麻ニ比スレバ、長クシテ且ツ強シ、之ヲ分解シテ精製スレバ、麻紵トナシ、以テ帆布囊布其他各種ノ綱繩ヲ製スベシ、其製法ハ亞麻ト甚ダ相似タリ、

大麻モ亞麻ト等シク、地理上ノ產界極メテ廣ク、邦國風土ノ如何ニ拘ハラズ、殆ド之ヲ生育セザル處ナシ、而シテ野生ノモノアリ、培養ノモノアリ、サレド暖地ニ生育スルモノハ、大ニ其價格ヲ減ジ、更ニ一種ノ新性質ヲ生ズ、卽チ其質變ジテ劇烈ナル麻醉性トナリ、其幹莖花葉ニ論ナク皆

一種樹脂質ノ浸出物ヲ附着ス、

大麻ハ、製シテ帆布、綱繩ト爲スノ外、褐色ノ粗紙ヲ製スベシ、又捲キ絲ハ、船舶用古繩ノ朽廢セシ處ヲ解キ、油ノ浸透セシ物ヲ以テ造レルモノニシテ、航海スルトキ船舶ニ水漏ノ患アレバ、之ヲ以テ其漏處ヲ塡塞スルニ用フ可シ、故ニ航海者ニ在リテハ、最モ貴重ノモノナリトス、

第二十九課　袴垂と保昌との話

昔袴垂とて、いみじきぬすびとの大將軍ありけり、十月をかりに、衣の用ありけるを衣少しまうけんとてさるべき所々うかがひありきけるに夜中をかりに、人皆しづまりぬ、後月の朧なるふきぬあまた着たりけるぬしのさしぬきのそば挾みて、絹の狩衣めきたる着て、只一人笛吹きて、行きもやらぎねりゆけば、あれは是きこそ我まきぬ得させんとて、出でたる人なんめれと思ひて、走り掛りてきぬを剝がんと思ふほどに、あやしく物の恐しく覺えけるまゝ、添ひて二三町をかり行けども、我ほ人こそ附きたるなと、思ひたるけしきもなし、いよ〳〵笛を吹きて行けば、試みんと

思ひて、足を高くして走り寄りたるに、笛を吹きながら見返りたるけしき、取りかゝるべくも覺えざりけきバ、走りのきぬ、かやうにあきたゝひときまかりさまにまるに、露をかりも騒ぎたるけしきなし、希有の人かなと思ひて、十餘町をかり具して行き、きまとてあらんやうと思ひて、刀を抜きて走りかゝりたる時ハ、そのたび笛を吹きやめて、立ちゝへりて、こハ何者ぞと問ふに、心も失せて、我ハもあらでついゐられぬ、又いかなる者ぞと問へバ、今ハふぐともよもふがさゝと

覺えけきバ、ひとゝもぎハ候ふと云へバ、何者ぞと問ひしかを、あざなを袴垂となんいハきを候ふと答ふきをざ云ふ者ありときくぞ、危げハ希有のやつかなと云ひて、供ハまうでこよとをかりいひかけて、又同ト様ハ笛ふきてゆく此人のけしき、今ハにぐもよもにがさゝと覺えけきバ、鬼ハ神とらきたるやうにて、共ハ行くほどハ、家ハゆきつきぬ、いづこぞと思へバ、攝津の前司保昌と云ふ人なりけを、家の内ハ呼び入きて、綿あつき衣一を給ちりて、きぬの用あらん時ハ參りて申せ、

心も知らざらん人に取り掛りて、汝あやまちをなとありしこを、あさましくむくつけくおそろしかりしゞいみとかりし人のありさまなりと、捕へらきて後語りける宇治拾遺物語

第三十課　軍人へ五箇條ノ敕諭(一)

我ガ國ノ軍隊ハ世々天皇ノ統率シ給フ所ニゾアル、昔神武天皇躬ヅカラ大伴物部ノ兵ドモヲ率ヰ、中國ノマツロハヌモノドモヲ討チ平ゲ給ヒ、高御座ニ即カセラレテ、天下シロシメシ給ヒシヨリ、二千五百有餘年ヲ經ヌ此間世ノ樣ノ移

リ換ルニ隨ヒテ、兵制ノ沿革モ亦屢ナリキ、古ハ天皇躬ヅカラ軍隊ヲ率ヰ給フ御制ニテ、時アリテハ皇后皇太子ノ代ラセ給フコトモアリツレド、大凡ソ兵權ヲ臣下ニ委ネ給フコトハナカリキ、中世ニ至リテ、文武ノ制度皆唐國風ニ倣ハセ給ヒ、六衛府ヲ置キ、左右馬寮ヲ建テ、防人ナド設ケラレシカバ、兵制ハ整ヒタレドモ、打續ケル昇平ニ狃レテ、朝廷ノ政務モ漸ク文弱ニ流レケレバ、兵農自ラ二ニ分レ、古ノ徵兵ハ、イツトナク壯兵ノ姿ニ變リ、遂ニ武士トナリ、兵馬ノ權ハ一向

ニ其武士ドモノ棟梁タル者ニ歸シ世ノ亂ト共ニ、政治ノ大權モ、亦其手ニ落チ、凡ソ七百年ノ間、武家ノ政治トハナリヌ、世ノ樣ノ移リ換リテ斯クナレルハ、人力モテ挽回スベキニアラズトハ云ヒナガラ、且ツハ我ガ祖宗ノ御制ニ背キ奉リ、淺間シキ次第ナリキ、降リテ弘化嘉永ノ頃ヨリ、德川ノ幕府其政衰ヘ、剩ヘ外國ノ事ドモ起リテ、其侮ヲモ受ケヌベキ勢ニ迫リケレバ、朕ガ皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇イタク宸襟ヲ惱マシ給ヒシコソ、忝クモ又惶ケレ、然ルニ朕幼クシテ天

津日嗣ヲ受ケシ初メ、征夷大將軍其政權ヲ返上シ、大名小名其版籍ヲ奉還シ、年ヲ經ズシテ海内一統ノ世トナリ、古ノ制度ニ復シヌ、是レ文武ノ忠臣良弼アリテ、朕ヲ輔翼セル功績ナリ、

歷世祖宗ノ專ラ蒼生ヲ憐ミ給ヒシ御遺澤ナリトイヘドモ、倘シ我ガ臣民ノ其心ニ順逆ノ理ヲ辨ヘ、大義ノ重キヲ知レルガ故ニコソアレ、サレバ此時ニ於テ兵制ヲ更メ、我ガ國ノ光ヲ輝サントオモヒ、此十五年ガ程ニ、陸海軍ノ制ヲバ、今ノ樣ニ建テ定メヌ、夫レ兵馬ノ大權ハ、朕ガ統ブル所

ナレバ、其司々ヲコソ臣下ニハ任スナレ、其大綱ハ、朕親ラ之ヲ攬リ、肯テ臣下ニ委ヌベキモノニアラズ、子々孫々ニ至ルマデ、篤ク斯旨ヲ傳ヘ、天子ハ、文武ノ大權ヲ掌握スルノ義ヲ存シテ、再ビ中世以降ノ如キ、失體ナカランコトヲ望ムナリ、朕ハ汝等軍人ノ大元帥ナルゾ、サレバ朕ハ汝等ヲ股肱ト賴ミ、汝等ハ朕ヲ頭首ト仰ギテソ、其親ハ特ニ深カルベキ、朕ガ國家ヲ保護シテ、上天ノ惠ニ應ジ、祖宗ノ恩ニ報イマイラスル事ヲ得ルモ得ザルモ、汝等軍人ガ其職ヲ盡スト盡サヾルトニ由ルゾカシ、我ガ國ノ稜威振ハザルコトアラバ、汝等能ク朕ト其憂ヲ共ニセヨ、我ガ武維レ揚リテ、其榮ヲ輝サバ、朕汝等ト其譽ヲ偕ニスベシ、汝等皆其職ヲ守リ、朕ト一心ニナリテ、力ヲ國家ノ保護ニ盡サバ、我ガ國ノ蒼生ハ、永ク大平ノ福ヲ受ケ、我ガ國ノ威烈ハ、大ニ世界ノ光華トモナリヌベシ、朕斯モ深ク汝等軍人ニ望ムナレバ、猶ホ訓諭スベキ事コソアレ、イデヤ之ヲ左ニ述ベム、

卷之七終

高等讀本 自卷一 至卷八 全八冊
明治二十年六月 八 日版權免許
同 二十一年二月二十五日印刷再版

東京文學社藏

編纂人 岩手縣平民 文學士 中原貞七 東京神田區駿河臺袋町九番地
發行兼印刷人 發賣縣士族 小林義則 東京日本橋區本町四丁目十六番地
發兌 文學社 東京日本橋區本町四丁目十六番地

津秋夏男

卷七 文學社

生徒持主 津秋夏男